

児童発達支援センター きらり直方
令和元年度自己評価結果及び改善目標について

児童発達支援センター きらり直方
センター長 坂本 健一

1. 評価結果について

保護者アンケート及び職員アンケート（2月実施）結果

- ① 保護者と職員の情報共有がまだまだ十分ではない。
- ② 活動内容が固定化している部分がある。
- ③ 保護者支援の充実が求められている。
- ④ 父母の会等、保護者同士の連携の機会は不足している。
- ⑤ 第三者評価が行われていない。
- ⑥ 研修機会が十分ではない。
- ⑦ 専門機関との連携が不足している。
- ⑧ 地域との交流機会の不足。
- ⑨ 緊急時の対応について。

上記の9点について改善の必要があるという評価結果になりました。

2. 改善目標の設定について

- ① 情報共有の強化
個別の面談の機会を少なくとも6か月に1度設けます。
- ② 活動内容の充実
他の児童発達支援センター等の見学や連携を図り、活動を取り入れます。
専門家のアドバイスを受け、活動内容を設定します。
活動内容の検討をチームで行います。
- ③ 保護者支援の充実
ペアレントトレーニングの実施に向けて、職員の研修受講を進めます。
- ④ 保護者同士の連携の機会の設定
保護者勉強会の実施
きらりカフェの実施
- ⑤ 外部評価の導入に向けた検討
⑦の専門機関との連携の充実にあわせ、センターの支援内容を評価してもらう仕組みを作ります。
- ⑥ 職員のスキルアッププログラムの策定
法人のスキルアップ制度を積極的に活用します。
- ⑦ 専門機関との連携の充実
福岡県発達障害者支援センターゆうもあとの連携

直方特別支援学校との連携

他の児童発達支援センターや放課後等デイサービス事業者との連携

直轄地区自立支援協議会との連携

医療機関との連携

⑧ 地域との交流機会の設定

地域住民を行事に招待

地域の幼稚園・保育園との交流の実施

施設見学会の実施

施設機能の開放

⑨ 緊急時の対応強化

直方消防署・直方警察署との連携

火災・地震・水害・不審者等を想定した避難訓練・救出訓練・通報訓練の実施

田川児童相談所との連携

虐待の予防のため、職員研修の実施

各、対応マニュアルの再検討

非常災害対応マニュアル（火災、地震、水害、不審者、感染症）の周知徹底と、定期的な見直し、

上記の9項目について、令和2年度は取り組んでまいります。

1. 子どもたちが楽しく通える施設づくり
2. 保護者の皆様に寄り添い支えあうことのできる施設づくり
3. 子供の発達を「保護者・職員・地域」が一体となって支える施設づくり

今後も、児童発達支援センターきらり直方をよろしく願いいたします。